

次期千葉市文化芸術振興計画策定に係る有識者調査について

【目的】

次期計画策定にあたり、「文化芸術の社会包摂」、「観光、まちづくり等の各関連分野との連携」については、対象が広く、市民意識調査だけでは十分な調査が難しいと思われるため、有識者意見聴取を行う。

【意見聴取対象者】

以下の候補者から各 1 名を選定し、実施する。

«文化芸術の社会包摂について»

- ①九州大学大学院芸術工学研究院附属 ソーシャルアートラボ（中村 美亜氏など）
文化庁と「はじめての“社会包摂×文化芸術”ハンドブック」を作成
- ②鈴木 京子氏（国際障害者交流センター ビッグ・アイ 事業プロデューサー）
国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）は2001年に厚生労働省が設置し、障害者が自ら行う国際交流活動や芸術・文化活動の場として、また、障がい者のみならず、広く国民の参加する交流の場として整備されている。
- ③柴崎由美子氏（NPO法人エイブル・アート・ジャパン 代表理事/事務局長）
1994年に「日本障害者芸術文化協会」を設立し、障害の有無や種別を超えて、芸術文化活動等を通して、自らを自由に表現する場の提供等の事業を実施している。2011年に当該NPO法人を設立。

次期千葉市文化芸術振興計画策定に係る有識者調査について

《観光、まちづくり等の各関連分野との連携》

①北村 政則氏（八戸ポータルミュージアム はっち 館長）

「八戸ポータルミュージアム はっち」は自主事業として、地域のまつりにまつわる作品の制作・展示や、市内伝統のものづくりに触れる機会の創出など、「文化芸術振興」、「市街地の賑わい創出」、「ものづくり振興」、「観光振興」など文化芸術と様々な分野が連携したまちづくりに取り組んでおり、北村氏は館長を務める。

②藤野 一夫 氏（芸術文化観光専門職大学 教授）

平成19年度から21年度まで、文部科学省・現代的教育ニーズ取組支援プログラム「アートマネジメント教育による都市文化再生」事業推進責任者を務めた。また、大阪府内の市町村職員が集まって研修を行う「マッセ大阪」において、自治体職員がおこなった「文化・芸術を活かしたまちづくり」の研究の助言指導を行った。

③林 暁甫氏（特定非営利活動法人インビジブル 理事長）

公共空間や商業施設などでアートプロジェクトを展開する企画運営に従事し、文化芸術を通じた地域活性化や観光振興に携わる。

別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界2012」事務局長、六本木アートナイトプログラムディレクター、鳥取藝住祭総合ディレクターなどを歴任。

千葉市新基本計画審議会の委員も務めている。